

経営比較分析表（平成29年度決算）

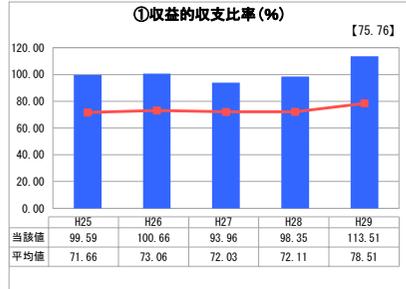
北海道 上ノ国町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	94.42	3,240	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
4,988	547.71	9.11
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
4,650	272.56	17.06

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



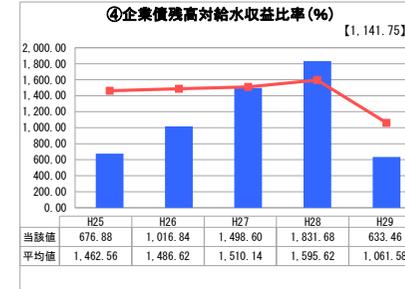
「単年度の収支」



「累積欠損」



「支払能力」



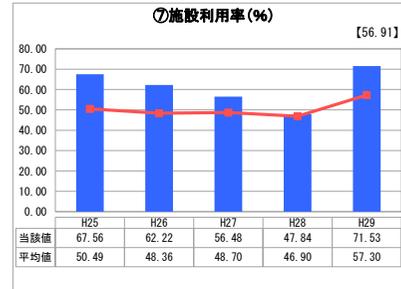
「債務残高」



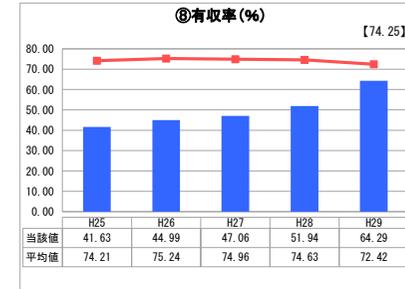
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

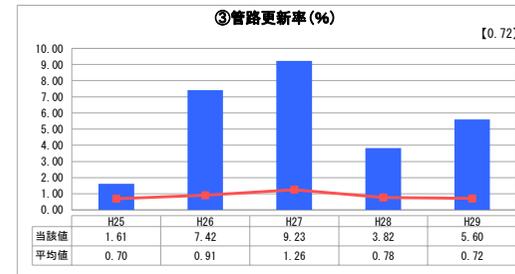
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率は類似団体平均を上回っているものの経営改善に向けた取り組みが必要。
 企業債残高対給水収益比率は、上水道との会計統合により減少したものの、依然として水道施設等の整備の財源の多くを企業債に依存している。
 料金回収率は100%以上となっており今後も費用削減や更新投資等に充てる財源を確保する必要がある。
 給水原価は類似団体平均より低く、施設利用率は高いため概ね適正と言える。
 有収率は類似団体平均より低く管路の老朽化に伴う漏水量の増加と考えられる。

2. 老朽化の状況について

管路更新率は類似団体平均より高く老朽管の更新は進んでいるが今後も継続して更新していくことが必要。

全体総括

現状においては比較的健全な経営と言えるが、長期的に考えると水道施設の老朽化に伴う更新費用の増大や人口減少に伴う料金収入の減少により、経営状況はますます厳しくなることが予想される。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。